

2. 鳥類

(1) 調査概要

1) 調査方法

調査対象種については、RDB1998 およびRL2004、RDB2009、RL2014 に掲載された種のうち、情報不足(DD)および要注目種(AN)を基本とし、調査員による補完調査を行った。また、他の種についても、必要に応じて随時現地調査を実施し、データの積み重ねを行った。また、調査員による補完調査においても、元々の個体数が少なく観察が困難な種については、日本野鳥の会熊本県支部（以下、野鳥の会県支部）が実施する探鳥会等における出現種についても評価を行った上で採用した。

その他、「熊本県鳥類誌 ー熊本県産鳥類目録ー」（日本野鳥の会熊本県支部 2016）掲載種についても、調査に加えた。

2) 産地情報の採用基準

産地情報は、調査員による現地調査による記録のほか、客観的に判断できる生態写真および剥製・羽毛等の標本、複数の観察者による目撃情報等があるものについて採用した。

3) 調査結果の概要

調査の結果、県産種として21目67科368種を確認した。これらのうち、絶滅(EX)1科1種、絶滅危惧IA類(CR)8科8種、絶滅危惧IB類(EN)12科16種、絶滅危惧II類(VU)16科24種、準絶滅危惧(NT)11科14種、情報不足(DD)2科3種、絶滅のおそれのある地域個体群(LP)4科4種、要注目種(AN)8科10種を選定した。

今回の調査結果、CRの8種については、前回のRL2014から変わっていない。ENにはウズラ、トモエガモ、オオジシギ、オオコノハズクの4種がVUからアップリストされ16種となった。これら4種はいずれも観察頻度が非常に低くなっている。VUは前回より3種少なくなつて24種が掲載されているが、前出の4種がENに、ウチヤマセンニュウがNTからそれぞれアップリストされたためである。ウチヤマセンニュウは、生息する島の面積が小さく環境が不安定であることが最大の懸念事項である。島の植生の遷移とともにハビタットが失われてしまう可能性がある。NTについては、ナベヅルとオオルリが新たに加えられ14種を選定された。特にオオルリについては、繁殖地の現状変化は少ないと思われるが、観察頻度の減少傾向が続いている。DDについては、3種が選定された一方でホシガラスとシマアカモズの2種がリストから外れた。ホシガラスについては、ある程度情報が集積されてきており、九州中央山地の高標高地に留鳥として生息していることが分かってきた。また、新たに白髪岳（あさぎり町）でも確認されている。ただ、個体数は少なく、今後も注視していく必要がある。シマアカモズは、1980年代までは熊本県内で繁殖する鳥種であったが、近年は冬鳥または旅鳥として稀に渡来するに過ぎなくなった。ANには10種が選定されているが、キビタキが新たにアップリストされた。本種は、かつては夏緑樹林の鳥であったが、近年は照葉樹林の鳥になっている。これは、夏緑樹林のスズタケの壊滅的な喪失により、夏緑樹林全体がやせ細って、疎林状態になってしまったことが要因と考えられる。今後、どのような動向を見せるのか注視していきたい。

4) 今後の課題

県内で唯一高標高地に生息する鳥類の数少ない生息地であった国見岳や市房山の7合目

以上では、林床を覆っていたスズタケがほぼ壊滅状態にあり、高木層の枯死が目立つようになってきた。そのため、これらの環境に生息していたメボソムシクイやホシガラス、キバシリなどについても、植生の変化とともにその動向を継続して調査する必要がある。また、「東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地」を經由して渡る多くのシギ・チドリ類の水鳥については、東シナ海沿岸の大規模開発が継続しているために、急速に個体数を減らしている種も少なくない。今後は渡り性水鳥についても注視していかなければならない。

(2) 種の解説

絶滅(EX)から要注目種(AN)までの、それぞれのカテゴリーに位置づけた 80 種について、以下に解説する。

絶滅 (EX)

オナガ

Cyanopica cyanus japonica Parrot, 1905

カラス科

熊本県カテゴリー

絶滅 (EX)

環境省カテゴリー

選定理由 絶滅

生息環境 住宅地や里山

生息状況 本州中部では留鳥だが、本州南西部から四国・九州では迷鳥または過去に繁殖していた種である。九州では最近記録されていない。熊本県では、1924年8月27日、水上村湯山で川口孫次郎により報告されている1例がある。

生存への脅威 不明

特記事項

絶滅危惧 I A 類 (CR)

ヨタカ

Caprimulgus indicus jotaka Temminck & Schlegel, 1844

ヨタカ科

熊本県カテゴリー

絶滅危惧 I A 類 (CR)

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

選定理由 近年減少

生息環境 低山帯から山地帯の疎林や草地

生息状況 夏鳥として県内各地に少数が飛来する。かつては市街地周辺の里山や水田などの農耕地でも見られていたが、餌となる飛翔性昆虫類の減少のためか、渡来数は減少傾向が続いている。

生存への脅威 土地造成、農薬使用

特記事項



撮影：坂梨仁彦

ヘラシギ

Eurynorhynchus pygmeus (Linnaeus, 1758)

シギ科

熊本県カテゴリー

絶滅危惧 I A 類 (CR)

環境省カテゴリー

絶滅危惧 I A 類 (CR)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 干潟や海岸に近い水田、湿地

生息状況 春と秋の渡りの時期に通過する旅鳥。荒尾海岸、白川河口、球磨川河口などで、ごく稀に見られることがある。かつては10羽以上の集団が確認されたこともあるが、近年、観察頻度、個体数ともに極度に減少し、確認できない年が多い。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項

世界的にも生息数が少なく、数百羽程度。渡り中継地や越冬地である黄海や東シナ海沿岸部の開発が進み、生息基盤はかなり脆弱。熊本県内ではスパルティナ属植物の侵入による干潟の消失も懸念される。種の保存法（希少野生動植物種）。



撮影：金子博臣

イヌワシ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠA類（CR）
環境省カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類（EN）

Aquila chrysaetos japonica Severtzov, 1888

タカ科

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 広大な草地や伐採地を含む森林

生息状況 熊本県では1990年代前半までは阿蘇地方を中心に観察されたが、1995年の観察を最後に見られなくなった。九州の他県でも生息が確認されなくなった状況からも、今後の観察は難しいと思われる。

生存への脅威 人工造林、道路工事、農地開発、人等の接近・利用

特記事項 文化財保護法（天然記念物）、種の保存法（希少野生動植物種）



撮影：今村京一郎
提供：熊本県博物館ネットワークセンター

鳥類

ヤイロチョウ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠA類（CR）
環境省カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類（EN）

Pitta nympha Temminck & Schlegel, 1850

ヤイロチョウ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 低山帯から山地帯の良く発達した森林

生息状況 主に西日本に夏鳥として渡来し、県内では菊池・阿蘇地域から、九州中央山地などに広く分布していると思われるが、個体数が少なく、確認は困難。繁殖は未確認。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、動物被害

特記事項 繁殖地や越冬地の消失や転換、あるいは捕獲などにより、世界的に減少傾向。生息数は、数千羽と推定。主な繁殖地の一つである台湾では、年率5.9%で減少しているとの研究もある。種の保存法（希少野生動植物種）。



撮影：村富充明

サンショウクイ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠA類（CR）
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

Pericrocotus divaricatus divaricatus (Raffles, 1822)

サンショウクイ科

選定理由 近年減少

生息環境 低山帯の明るい林

生息状況 かつては、低山帯の明るい林に夏鳥として少数が渡来し繁殖していた。しかし、近年は、渡りの時期にごく少数が通過しているだけで、繁殖はしていないものと思われる。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、気候温暖化

特記事項 亜種リュウキュウサンショウクイ *P. d. tegimae* Stejneger, 1887 は、増加傾向にある。



撮影：白石久善

メボソムシクイ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠA類（CR）
環境省カテゴリー

Phylloscopus xanthodryas (Swinhoe, 1863)

ムシクイ科

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 九州中央山地の山頂付近

生息状況 九州中央山地の国見岳や市房山などの山頂付近に少数が夏鳥として渡来していたが、近年はいずれの山地でも全く見られなくなった。

生存への脅威 自然遷移、気候温暖化、その他（シカ食害による林床植生の破壊）

特記事項



撮影：坂梨仁彦

コマドリ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠA類（CR）
環境省カテゴリー

Luscinia akahige akahige (Temminck, 1835)

ヒタキ科

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 下草の良く茂った夏緑樹林

生息状況 夏鳥として、菊池・阿蘇や九州中央山地などの標高が高く、スズタケなどの下草の茂った夏緑樹林帯に渡来して繁殖する。近年は、林床が壊滅的な状況で、ほとんどの場所で見られなくなった。春と秋の渡りの時期には、県下各地の平地を通過している。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、捕獲・採集、自然遷移、気候温暖化、その他（シカ食害による林床植生の破壊）

特記事項



撮影：白石久善

コジュリン

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠA類（CR）
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

Emberiza yessoensis yessoensis (Swinhoe, 1874)

ホオジロ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 草原

生息状況 阿蘇の草原の一部に夏鳥として渡来して繁殖する。個体数は20数つがい程度と推定される。営巣環境である高茎草原の存続が人為によって大いに影響されるため、個体群の維持が懸念される。

生存への脅威 農地開発、観光開発、草地の開発、管理放棄、人等の接近・利用

特記事項 繁殖の南限



撮影：白石久善

絶滅危惧 I B 類 (EN)

ウズラ

Coturnix japonica Temminck & Schlegel, 1849

キジ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由 近年減少

生息環境 農耕地や河川敷の草地

生息状況 1950 年代ごろまでは、阿蘇地方を中心に夏季の記録もあったが、現在は、冬鳥として渡来し、県下各地の農耕地や河川敷の草地などに少数が生息していると思われる。

生存への脅威 河川改修、草地の開発、人等の接近・利用

特記事項



撮影：白石久善

トモエガモ

Anas formosa Georgi, 1775

カモ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 八代海(不知火海)・有明海などの浅海域、湖沼やダム湖、河川

生息状況 年によって渡来数の変動は大きいですが、熊本県における渡来数は減少傾向にある。減少の直接的な原因は不明であるが、自然林の減少、湖沼や河川の汚濁などの全般的な生息環境の悪化が影響していると考えられる。

生存への脅威 池沼の改修、河川改修、水質汚濁

特記事項 IUCNによれば、世界的な個体数は増加傾向にある。しかし、大きな群れを作る習性があるため、病気の蔓延や狩猟など、多くの要因で一気に減少する可能性は否定できない。



撮影：白石久善

ヨシゴイ

Ixobrychus sinensis sinensis (Gmelin, 1789)

サギ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 近年減少

生息環境 低地の池沼や河川、休耕田

生息状況 夏鳥として、ヨシやマコモ、ガマなど、背の高い単子葉植物が茂った湿地や河川敷に渡来して繁殖する。魚類、水生昆虫、カエル、バッタなどを捕食するが、餌動物の減少と営巣環境の悪化とが相まって、渡来数は減少傾向にある。

生存への脅威 池沼の改修、河川改修、水湿地の開発、ヨシ原の減少

特記事項



撮影：白石久善

ミソゴイ

Gorsachius goisagi (Temminck, 1836)

サギ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少**生息環境** 低山帯の照葉樹林から山地帯の夏緑林下部の自然林やスギ、ヒノキ林**生息状況** 県下各地に夏鳥として少数が渡来していると思われるが、観察例が少ないので、正確な渡来数や増減傾向はつかみにくい。生息地周辺の聞き取り調査では、特徴的な鳴き声が聞かれなくなったとの声が多い。薄暗い森林中の溪流などで、サワガニや昆虫、ミミズ、魚類を捕食する。繁殖は他のサギ類と異なり、森林の中でコロニーを作らず単独性である。

撮影：白石久善

生存への脅威 森林伐採、人工造林、ダム工事**特記事項** 知られている繁殖地はほぼ日本だけで、日本固有種である。

クツラヘラサギ

Platalea minor Temminck & Schlegel, 1849

トキ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

選定理由 全国局限、県内局限、分布境界**生息環境** 干潟や海岸に近い水田、湿地、湖沼**生息状況** 冬鳥として渡来し、白川や緑川の河口域及び八代海(不知火海)沿岸域などを主な越冬地とするが、荒尾海岸、菊池川河口、江津湖などでも少数が越冬する。日本全体の渡来数は、1990年代初頭までは10羽未満だったが、90年代後半から急激な増加を見せ、2018年には約508羽になった。若い個体の中には越冬する個体もいる。熊本県は国内最大級の飛来地となり2018年には171羽となっている。従来の越冬地である東南アジアの沿岸域の環境悪化により、熊本県への渡来が増加しているものと思われる。

撮影：白石久善

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失**特記事項** 東アジア特産種で、2018年1月の東アジア各国一斉調査では3,941羽が確認された。日本で越冬する個体は、香港、台湾などで越冬する個体群とは別の渡り経路を利用している。

オオジシギ

Gallinago hardwickii (Gray, 1831)

シギ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限**生息環境** 山地の草地**生息状況** 阿蘇外輪山の牧草地や短草型草原に夏鳥として少数が渡来して繁殖するが、農業形態の変化に伴う採草地や放牧地の減少につれて、阿蘇地域の繁殖個体数は減少していると思われる。

撮影：小池康司

生存への脅威 農地開発、観光開発、草地の開発、自然遷移**特記事項** 繁殖南限、日本で繁殖し、オーストラリアで越冬する。

コアシサシ

Sterna albifrons sinensis Gmelin, 1789

カモメ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 近年減少

生息環境 砂浜海岸や河川敷、造成地

生息状況 かつては、夏鳥として砂浜海岸や河川の中州などに渡来して繁殖していたが、近年は、こういった繁殖環境が消滅したため、人工的に造成された干拓地などに渡来して少数が繁殖するのみである。しかし、このような場所は、永続的でなく一時的なものであるため、非常に脆弱である。人為に大きく左右される環境に依存しているために、一気に熊本県に渡来・繁殖しなくなる可能性がある。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、人等の接近・利用、自然遷移

特記事項



撮影：白石久善

鳥類

ハチクマ

Pernis ptilorhynchus orientalis Taczanowski, 1891

タカ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 低山帯のよく茂った林

生息状況 夏鳥として少数が渡来し、県内数ヶ所で繁殖していると考えられている。過去の繁殖地でも、渡来しなくなった場所が増えてきている。1巣あたりの巣立ち雛数は1羽の例が多く、大きく個体群が増加することは考えにくい。営巣できる大径木や主食となるハチ類の減少が主たる減少理由と考えられる。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、人等の接近・利用

特記事項



撮影：白石久善

チュウヒ

Circus spilonotus spilonotus Kaup, 1847

タカ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 広いヨシ原や草地、農耕地

生息状況 冬鳥として少数が渡来する。餌となるネズミ類や小鳥類が生息する広大な草地が必要である。しかし、そのような環境は、近年、工業用地や農地として造成・転用され、生息環境が減少している。それに伴い、渡来数は減少傾向にある。

生存への脅威 農地開発、河川改修、水湿地の開発、ヨシ原の減少

特記事項 種の保存法（希少野生動植物種）



撮影：白石久善

オオコノハズク

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー

Otus lempiji semitorques Temminck & Schlegel, 1844

フクロウ科

選定理由 県内局限

生息環境 低山帯から山地帯の林

生息状況 かつては、低山帯の疎林や社寺林など、県下各地に生息していたと思われる。近年は、確実な生息記録はほとんどなく、生息が危ぶまれる。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、土地造成、道路工事

特記事項



撮影：金子博臣

コノハズク

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー

Otus sunia japonicus Temminck & Schlegel, 1844

フクロウ科

選定理由 近年減少

生息環境 良く発達した夏緑樹林

生息状況 かつては、菊池・阿蘇や九州中央山地の夏緑樹林に渡来して少なからず繁殖していた。近年は、かつて生息していた多くの場所で確認できなくなっており、極度に減少していると思われる。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事

特記事項



鳥獣保護センター 撮影：山本和紀

アカショウビン

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー

Halcyon coromanda major (Temminck & Schlegel, 1848)

カワセミ科

選定理由 近年減少

生息環境 低山帯から山地帯の沢沿いの森林

生息状況 夏鳥として、河川上流域の溪流畔のよく繁った照葉樹林や夏緑林下部に少数が渡来する。餌動物が豊富に生息する森林と繁殖可能な樹洞のある大径木の減少により、渡来数が減少している。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事

特記事項



撮影：白石久善

ブッポウソウ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類（EN）
環境省カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類（EN）

Eurystomus orientalis calonyx (Linnaeus, 1766)

ブッポウソウ科

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 自然林や社寺林等

生息状況 夏鳥として少数が渡来し繁殖する。かつては山間地にある学校や社寺林などの大木での繁殖が見られたが、近年は周囲に森林が広がる人工構造物（橋梁）での繁殖が数ヶ所確認されるだけとなった。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、農業使用

特記事項



撮影：白石久善

コシアカツバメ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類（EN）
環境省カテゴリー

Hirundo daurica japonica Temminck & Schlegel, 1845

ツバメ科

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 農耕地や山間部など

生息状況 かつては、人吉市や水俣市、御船町、山都町（旧矢部町）、小国町など山間や山麓部にある市街地のビルなどに少なからず集団営巣地があった。しかし、現在ではその多くが消滅し、数ヶ所を残すのみとなった。

生存への脅威 土地造成、農地開発、農業使用、その他（建物の変容）

特記事項 軒裏に細長い（とっくりを縦半分に切ったような）巣を作るための防水性・防汚性を高めるための建物外装が営巣を困難にしたのも影響していると考えられる。



撮影：白石久善

クログミ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類（EN）
環境省カテゴリー

Turdus cardis Temminck, 1831

ヒタキ科

選定理由 近年減少

生息環境 低山帯から山地帯の森林

生息状況 夏鳥として、菊池溪谷や阿蘇などの広葉樹林やスギ・ヒノキ林に渡来するが、渡来地の数も渡来数も減少している。近年は、外来種のガビチョウ（チメドリ科）との競合も懸念されている。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、土地造成、外来種の侵入

特記事項



撮影：山本和紀

コサメヒタキ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー

Muscicapa dauurica dauurica Pallas, 1811

ヒタキ科

選定理由 近年減少

生息環境 明るい広葉樹林

生息状況 かつては、夏鳥として少なからず渡来し、県内各地の低山帯から山地帯まで広く繁殖していた。現在は、限られた場所で、ごく少数が繁殖しているだけで、渡りの時期以外にはほとんど姿を見ることができない。

生存への脅威 森林伐採、ゴルフ・スキー場開発、観光開発、農薬使用

特記事項



撮影：山本和紀

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

アカヤマドリ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

Syrnaticus soemmerringii soemmerringii (Temminck, 1830)

キジ科

選定理由 全国局限、近年減少、分布境界

生息環境 よく茂った山林

生息状況 主として県央から県北にかけて、林床のよく茂った広葉樹林や植林地などに生息するが、観察される機会は非常に少ない。林床がシカ食害により壊滅するなどの環境変化や狩猟鳥としても捕獲されているために、個体数は激減しているものと思われる。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、ダム工事、捕獲・採集

特記事項



撮影：山本和紀

コシジロヤマドリ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

Syrnaticus soemmerringii ijimae (Dresser, 1902)

キジ科

選定理由 全国局限、県内局限、分布境界

生息環境 主に県南の林床のよく茂った広葉樹林やスギ・ヒノキ植林地

生息状況 かつては、阿蘇地域や菊池溪谷で記録されたこともあるが、現在では県北での記録はなく、主に県南地域に生息する。しかし、林床が貧弱になっていることなどもあって観察例も減少してきている。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、ダム工事、誤獲

特記事項 宮崎県指定天然記念物。腰の白色部は県北に行くほど狭くなり、アカヤマドリとの分布境界線を引くのは、困難である。南部九州の固有亜種である。



撮影：坂梨仁彦

カラスバト

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー
準絶滅危惧（NT）

Columba janthina janthina Temminck, 1830

ハト科

選定理由 県内局限

生息環境 天草周辺の島

生息状況 天草周辺のいくつかの島嶼に少数が生息している。これらの島では遷移が進行して、アコウやスタジイ、タブノキなどが成長し、生息適地となったと考えられる。熊本県では2009年に初めて生息が確認され、2011年には繁殖が確認されている。

生存への脅威 観光開発、人等の接近・利用

特記事項



撮影：坂口里美

鳥類

ヒメウ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類（EN）

Phalacrocorax pelagicus pelagicus Pallas, 1811

ウ科

選定理由 県内局限

生息環境 天草周辺の岩礁と海

生息状況 冬期において天草灘の岩礁等で、ウミウの群れに混じってごく少数が観察される。また、八代海（不知火海）沿岸でも観察されたことがある。近年は、いずれの地でも観察例が激減している。

生存への脅威 水質汚濁、人等の接近・利用

特記事項



撮影：白石久善

ササゴイ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー

Butorides striata amurensis (Schrenck, 1860)

サギ科

選定理由 近年減少

生息環境 中小河川や湖沼など

生息状況 主に夏鳥として飛来し、街路樹や公園の樹木等に集団で営巣する。少数ではあるが越冬する個体もいる。

生存への脅威 河川改修、農薬使用

特記事項 水前寺公園でのササゴイの「撒き餌漁」は珍しい習性として世界的にもよく知られている。



撮影：白石久善

ジュウイチ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー

Hierococcyx hyperythrus (Gould, 1856)

カッコウ科

選定理由 近年減少

生息環境 山地帯の森林

生息状況 阿蘇や菊池、九州中央山地に夏鳥として渡来するが、近年減少傾向にある。熊本県で宿主は不明であるが、オオルリやコマドリなどに托卵しているものと思われる。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、ダム工事

特記事項



撮影：皆吉悦夫

ツツドリ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー

Cuculus optatus Gould, 1845

カッコウ科

選定理由 近年減少

生息環境 山地帯の森林

生息状況 阿蘇や菊池、九州中央山地に夏鳥として渡来するが、近年減少傾向にある。宿主は不明であるが、本州で宿主とされるムシクイ類が少ない熊本県ではオオルリなどに托卵しているものと思われる。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、ダム工事

特記事項



撮影：白石久善

イカルチドリ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー

Charadrius placidus Gray & Gray, 1863

チドリ科

選定理由 近年減少

生息環境 河川中流域の河原や中洲

生息状況 菊池川や緑川、川辺川などの大河川流域に留鳥として生息し、中・下流域の砂礫の河原や中洲で繁殖する。時に造成地などの裸地で繁殖することもある。繁殖期は特に縄張り意識が強く、高い声で鳴き飛翔する。河川改修やダム建設による河原の減少により、生息が危惧される。

生存への脅威 河川改修、ダム工事

特記事項



撮影：白石久善

シロチドリ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Charadrius alexandrinus dealbatus (Swinhoe, 1870)

チドリ科

選定理由 近年減少

生息環境 河口、干潟

生息状況 1970年代には春と秋の渡りの時期に、2,000羽を越す群飛が見られたが、近年は多くても数百羽程度と減少した。一部は越冬する個体もいる。また、少数は繁殖するが、汀線の砂地の減少により生息・繁殖が危惧される。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 荒尾市の鳥



撮影：西村誠

鳥類

オオソリハシシギ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Limosa lapponica baueri (Linnaeus, 1758)

シギ科

選定理由 近年減少

生息環境 河口、干潟

生息状況 春と秋の渡りの時期に、有明海や八代海(不知火海)沿いの干潟に渡来する。2000年代当初は年によって100羽以上が飛来することもあったが、近年は、減少傾向が著しい。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 この鳥は、東アジア・オーストラリア移動経路を経由するが、中継地の黄海沿岸の開発による急激な干潟の消失による個体数の減少を指摘する声もある。



撮影：白石久善

ハウロクシギ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Numenius madagascariensis (Linnaeus, 1766)

シギ科

選定理由 近年減少

生息環境 河口、干潟

生息状況 春と秋の渡りの時期に、ダイシャクシギに混じって有明海や不知火海の干潟にごく少数が渡来する。まれに越冬することもあるが、安定した状況にはない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 この鳥は、東アジア・オーストラリア移動経路を経由するが、中継地の黄海沿岸の開発による急激な干潟の消失による個体数の減少を指摘する声もある。



撮影：白石久善

ツルシギ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

Tringa erythropus (Pallas, 1764)

シギ科

選定理由 近年減少

生息環境 河口、干潟、水田

生息状況 春と秋の渡りの時期に、有明海や不知火海の干潟や水田、蓮田などに少数が渡来する。まれに越冬することもある。飛来数は安定していない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、農地開発、農薬使用

特記事項



撮影：白石久善

タカブシギ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

Tringa glareola Linnaeus, 1758

シギ科

選定理由 近年減少

生息環境 河口、干潟、水田

生息状況 春と秋の渡りの時期に沿海の淡水湿地に飛来する淡水性のシギで、干潟に出ることは少ない。阿蘇地方や球磨地方などの内陸にも渡来することがある。1980年代までは、100羽を超える群れを見ることがあったが、現在では数羽～数十羽が渡来するに過ぎない。少数が越冬することもある。

生存への脅威 水湿地の開発、埋め立て、農薬使用

特記事項



撮影：白石久善

タマシギ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

Rostratula benghalensis benghalensis (Linnaeus, 1758)

タマシギ科

選定理由 近年減少

生息環境 水田や蓮田、湿地等

生息状況 熊本平野や菊池平野、八代平野、球磨盆地など県下各地の水田や湿地、イ田、蓮田等に周年生息して繁殖する。しかし、阿蘇谷や南郷谷、矢部地方などの記録はほとんどない。生息環境の水田や湿地の減少に伴い、生息数は減少傾向にある。

生存への脅威 水湿地の開発、埋め立て、農薬使用

特記事項 水田を中心とした湿地性環境に依存して生息する鳥である。



撮影：白石久善

カンムリウミスズメ

Synthliboramphus wumizusume (Temminck, 1836)

ウミスズメ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 天草周辺の海

生息状況 冬季から春季にかけて天草近海の洋上で複数個体が見られるが、繁殖は確認されていない。多いときには、数十羽が同時に観察されたこともある。本種は、断崖絶壁のある島嶼で繁殖することが知られているので、天草地方の離島での繁殖確認が期待される。

生存への脅威 水質汚濁、人等の接近・利用

特記事項 九州では、福岡、長崎、宮崎、鹿児島で繁殖。



撮影：白石久善

鳥類

サシバ

Butastur indicus (Gmelin, 1788)

タカ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 低山帯の森林

生息状況 繁殖環境である里山の開発やえさ場となる谷津田の休耕及び農薬散布等によるカエルやヘビなどの餌動物の減少などの影響で、繁殖地も渡来数も減少している。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、土地造成、農薬使用

特記事項



撮影：白石久善

クマタカ

Nisaetus nipalensis orientalis (Temminck & Schlegel, 1844)

タカ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 低山帯から山地帯の森林

生息状況 比較的自然度の高い山地に留鳥として生息するが、低標高地での繁殖例もある。近年は人工林が増え、林道工事などで生息環境は悪化の一途をたどっている。生息地の分断化や餌動物の減少などによる繁殖率の低下が懸念される。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事

特記事項 種の保存法（希少野生動植物種）



撮影：白石久善

キュウシュウフクロウ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー

Strix uralensis fuscescens Temminck & Schlegel, 1850

フクロウ科

選定理由 近年減少

生息環境 低山帯の大径木のある社寺林や自然林等

生息状況 留鳥として周年生息するが、営巣可能な樹洞のある大径木や野ネズミなどの餌動物の減少により、繁殖できる場所が激減している。特に台風等による営巣木の枯損、熊本地震等による倒木、枝折れ等により、営巣木が極端に少なくなり、個体数の減少が懸念される。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、農薬使用

特記事項



撮影：白石久善

アオバズク

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー

Ninox scutulata japonica (Temminck & Schlegel, 1845)

フクロウ科

選定理由 近年減少

生息環境 低山帯の大径木のある社寺林等

生息状況 夏鳥として、県下各地の大径木のある環境に少数が渡来する。しかし繁殖適地の神社など、周辺の宅地開発や台風などによる倒木、危険防止のための伐採等により、営巣できる樹洞（うろ）をもつ大木が減少している。また、餌となる昆虫が減少し、渡来数は年々少なくなっている。

生存への脅威 農薬使用、人等の接近・利用、自然災害

特記事項



撮影：山本和紀

オオアカゲラ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー

Dendrocopos leucotos stejnegeri (Kuroda, 1921)

キツツキ科

選定理由 近年減少

生息環境 低山帯から山地帯の森林

生息状況 低山帯から山地帯にかけて周年生息する。近年は人工林が増え、森林伐採や林道工事などで生息環境が悪化してきている。さらに、山地帯のブナ林が壊滅的に枯死している地域もあり、生息地の減少が懸念される。

生存への脅威 森林伐採、自然遷移、人工造林、道路工事

特記事項



撮影：白石久善

ハヤブサ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

Falco peregrinus japonensis Gmelin, 1788

ハヤブサ科

選定理由 全国局限、県内局限、分布境界

生息環境 崖地のある沿海地や平野部の農耕地

生息状況 県内数ヶ所の海岸や内陸部の崖地で繁殖しているが、近年の動向は安定しているようである。冬期は、さらに北方から渡来する個体がいるほか、大陸から別亜種（*F. p. pealei*）も渡来している。

生存への脅威 海辺の改変等、岩石採掘、人等の接近・利用

特記事項 種の保存法（希少野生動植物種）



撮影：白石久善

鳥類

サンコウチョウ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー

Terpsiphone atrocaudata atrocaudata (Eyton, 1839)

カササギヒタキ科

選定理由 近年減少

生息環境 低山帯の発達した照葉樹林やスギ・ヒノキなどの人工林

生息状況 夏鳥として、良く茂った林の薄暗い環境に少数が渡来して繁殖する。近年、里山の管理が放棄された場所では樹木が育ち、繁殖適地となって個体数が回復する傾向がみられる所もある。しかし、県内全体を見ると森林の伐採等により生息環境は安定していない。

生存への脅威 森林伐採、観光開発、農業使用

特記事項



撮影：白石久善

ウチャマセンニュー

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類（EN）

Locustella pleskei Taczanowski, 1890

センニュー科

選定理由 県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 島嶼の低木林

生息状況 現在、生息が確認されているのは、天草近海の島嶼の1ヶ所のみで、数つがいが繁殖しているものと思われる。しかし、遷移の進行とともに、生息適地の環境が失われる可能性が高く、注視していく必要がある。

生存への脅威 人等の接近・利用、自然遷移

特記事項

キバシリ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー

Certhia familiaris japonica Hartert, 1897

キバシリ科

選定理由 近年減少

生息環境 山地帯の自然林

生息状況 照葉樹林と夏緑樹林の移行帯にあたる針広混交林を中心にごく少数が留鳥として生息する。繁殖は未確認。しかし、県内のこういった林は、林床のスズタケが壊滅し、乾燥化が進み大径木の枯死が進んでおり、生存が危ぶまれる。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事

特記事項



撮影：山本和紀

準絶滅危惧 (NT)

ツクシガモ

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Tadorna tadorna (Linnaeus, 1758)

カモ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 干潟、河口、干拓地

生息状況 冬鳥として、主に九州地方の浅海域に渡来する。1990年代末には八代海(不知火海)で10数羽の越冬数であったが、近年は白川河口や緑川河口域、八代海(不知火海)などでの越冬数が500羽を超え、県内では増加傾向にある。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項



撮影：白石久善

チュウサギ

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

Egretta intermedia intermedia (Wagler, 1829)

サギ科

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 低地の水田や畑、湿地

生息状況 主に夏鳥として、県内各地の平野部の河川や水田、湿地などに渡来する。水辺に近い竹林や雑木林の樹上に他のサギ類と集団繁殖する。魚類、カエル、水生昆虫、バッタなどを捕食する。他のシラスギ類が水際や水中で採餌を行うのに対し、より乾燥した環境でも採餌し、干潟に出ることは少ない。

生存への脅威 農地開発、河川改修、水湿地の開発、農薬使用

特記事項



撮影：白石久善

マナヅル

Grus vipio Pallas, 1811

ツル科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限

生息環境 干拓地等の水田、湿地生息環境

生息状況 熊本県は、本種の渡りの重要なルートに当たる。1970年代は、冬鳥として阿蘇谷に10羽前後が定期的に渡来していた。現在では、少数が干拓地の水田などに渡来し越冬するが、近くに好適なねぐらのある環境を越冬地として選択しているようである。

生存への脅威 水湿地の開発、人等の接近・利用、湿地の乾燥化

特記事項



撮影：白石久善

鳥類

ナベヅル

Grus monacha Temminck, 1835

ツル科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限

生息環境 干拓地等の水田、湿地生息環境

生息状況 熊本県は、本種の渡りの重要なルートに当たる。また、冬鳥として不知火干拓や球磨盆地の水田に1~3羽が不定期に渡来して越冬したこともある。近年は、定期的に少数が横島等の干拓地に渡来し、越冬するようになった。

生存への脅威 水湿地の開発、人等の接近・利用、湿地の乾燥化

特記事項



撮影：山本和紀

ヒクイナ

Porzana fusca erythrothorax (Temminck & Schlegel, 1849)

クイナ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 近年減少

生息環境 河川や池沼、水田

生息状況 主に、県下各地の低地の水田や河川に夏鳥として渡来して繁殖する。湿性植物の中に隠れていることが多く、発見が難しい。少数は越冬する。

生存への脅威 池沼の改修、河川改修、水湿地の開発、農薬使用

特記事項



撮影：白石久善

カッコウ

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

Cuculus canorus telephonus Heine, 1863

カッコウ科

選定理由 近年減少

生息環境 山地の草原、森林

生息状況 菊池・阿蘇や九州中央山地、県南の山地などの草原、疎林に夏鳥として渡来するが、生息数は多くない。県内における生息中心域は阿蘇外輪山の草地である。

生存への脅威 農地開発、観光開発、草地の開発、農業使用

特記事項 モズやオオヨシキリなどに托卵するとされる。熊本の場合、セッカの例はあるが、他の宿主についてはよくわかっていない。



撮影：白石久善

ダイシャクシギ

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

Numenius arquata orientalis Brehm, 1831

シギ科

選定理由 近年減少

生息環境 河口、干潟

生息状況 春と秋の渡りの時期に、有明海や不知火海の干潟や河口域に渡来する。白川河口域と八代海(不知火海)沿岸では数十羽が越冬する年もあるが、近年は減少傾向にある。砂干潟よりも泥干潟に多い。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項



撮影：白石久善

ハマシギ

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

Calidris alpina sakhalina (Vieillot, 1816)

シギ科

選定理由 近年減少

生息環境 河口、干潟

生息状況 かつては春と秋の渡りの時期に、数千羽の群れが干潟の上を乱舞する姿が見られたが、近年は数百～千羽程度と減少した。阿蘇地方や球磨地方など、内陸部の水湿地に渡来することもある。また、秋の渡り時期よりも越冬期の方が個体数が増加するので、越冬個体群が別に渡来しているものと思われる。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項



撮影：白石久善

ズグロカモメ

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Larus saundersi (Swinhoe, 1871)

カモメ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 干潟、河口

生息状況 主として、西日本の泥質の干潟で越冬する。荒尾海岸や白川・緑川・球磨川等の河口域及び八代海(不知火海)の干潟に多い。1980年代までは稀な冬鳥であったが、近年は県内で700羽以上を数えるまでになった。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 県内での越冬数増加は、かつて最大の越冬地であった諫早湾の埋め立てが影響しているものと考えられる。一方で、幼鳥率が低下しており個体群の継続が危惧されている。干潟のカニ類を主な餌としている。



撮影：白石久善

鳥類

ツミ

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

Accipiter gularis gularis (Temminck & Schlegel, 1844)

タカ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 低山地帯から山地帯の森林

生息状況 留鳥として、県下各地の森林で繁殖していると思われるが、確実な繁殖確認例は極めて少ない。森林性の猛禽類であるため、良好な森林が生存には不可欠である。しかし、関東などの一部地域では、公園や街路樹での繁殖が知られており、熊本でも注視されている。

生存への脅威 森林伐採、ダム工事

特記事項



撮影：白石久善

オオタカ

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

Accipiter gentilis fujiyamae (Swann & Hartert, 1923)

タカ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 低山帯の広葉樹林や平野部の農耕地

生息状況 1990年代後半までは、冬鳥もしくは旅鳥として記録されていたが、1998年に、小国町で県内初の繁殖確認がなされて以来、熊本市や宇城市などで、次々と繁殖が見つかっている。冬期に越冬個体の渡来がみられるほか、旅鳥としての通過もある。ただし、通過個体数は少なくなっている。

生存への脅威 森林伐採、土地造成、道路工事

特記事項



撮影：白石久善

コミミズク

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

Asio flammeus flammeus (Pontoppidan, 1763) フクロウ科

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 荒地、草地、農地

生息状況 冬期に平野部の農耕地や阿蘇の草原などに渡来する。近年は草地改良や干拓地の土地改良、耕作物の変化などもあり、観察例が少なくなり、生息が危ぶまれている。また、農耕地に張られている防鳥網にかかり死亡する例も少なくない。

生存への脅威 農地開発、草地の開発、誤獲、観光開発

特記事項



撮影：白石久善

センダイムシクイ

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

Phylloscopus coronatus (Temminck & Schlegel, 1847) ムシクイ科

選定理由 近年減少

生息環境 低山帯から山地帯の森林

生息状況 多くは旅鳥として、県下各地を通過しているが、夏鳥として、県内の低山帯上部から山地帯下部の森林で繁殖するものもいる。繁殖個体群の数が少ないので、詳細は不明である。

生存への脅威 森林伐採、人工造林

特記事項



撮影：白石久善

オオルリ

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

Cyanoptila cyanomelana cyanomelana (Temminck, 1829) ヒタキ科

選定理由 近年減少

生息環境 山地の森林

生息状況 渡りの時期には県下各地を通過する個体が少なからずいる。一方、夏鳥として、九州中央山地や菊池溪谷のほか、球磨地方、矢部地方などのよく茂った森林の崖地に渡来し繁殖する。しかし、近年は、森林の減少なども影響してか、渡来数は減少傾向にある

生存への脅威 森林伐採、人工造林、ダム工事

特記事項



撮影：白石久善

情報不足 (DD)

カラシラサギ

Egretta eulophotes (Swinhoe, 1860)

サギ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 その他 (希少)

生息環境 河口、干潟

生息状況 春と秋の渡りの時期に、県内各地の沿岸部を、ごく少数が通過していると思われる。多くの場合、同時期に見られるのは1~数羽程度であるが、遠くにいる場合、他のシラサギ類と混同している可能性があると思われるので、注意が必要である。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項



撮影：白石久善

鳥類

アオシギ

Gallinago solitaria japonica (Bonaparte, 1856)

シギ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 山地の溪流畔

生息状況 冬期に、山間地の溪流下部の水量が少なく、流れの緩やかな河川にごく少数が単独で飛来する。2007年からは観察される年が増えてきているとはいえ、絶対的な事例が極めて少ないので詳細は分からない。

生存への脅威 河川改修

特記事項



撮影：白石久善

カラフトアオアシシギ

Tringa guttifer (Nordmann, 1835)

シギ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)

選定理由 県内局限

生息環境 河口、干潟

生息状況 春と秋の渡りの時期に、稀な旅鳥として県内の沿岸部に飛来することがある。特に秋の渡りの時期に多くみられているが、個体数が少ない上に、観察頻度も低く、詳細は不明である。

生存への脅威 農地開発、海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 種の保存法 (希少野生動植物種)



撮影：鎌田征雄

地域個体群（LP）

ノスリ

Buteo buteo japonicus Temminck & Schlegel, 1844

タカ科

熊本県カテゴリー
地域個体群（LP）
環境省カテゴリー

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 夏は阿蘇地方、冬は各地の山地

生息状況 阿蘇地方には、周年生息する個体群が少数いる。崖地や山林で繁殖しているものと思われ、外輪山上の草地で餌を捕っている。冬期には平野部に移動するものもあり、阿蘇地方の個体数は若干少なくなる。

生存への脅威 土地造成、農地開発、観光開発、草地の開発

特記事項 繁殖南限



撮影：白石久善

コヨシキリ

Acrocephalus bistrigiceps bistrigiceps Swinhoe, 1860

ヨシキリ科

熊本県カテゴリー
地域個体群（LP）
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限

生息環境 原野

生息状況 夏鳥として、主に阿蘇の草原に渡来するが、個体数は少なく、数十羽がい程度で安定している。ススキを主とした長草型草原に多いが、渡来地は局地的で、阿蘇の草原のどこにでもいるというわけではない。

生存への脅威 農地開発、観光開発、草地の開発、管理放棄

特記事項 繁殖南限



撮影：白石久善

ヒンズイ

Anthus hodgsoni hodgsoni Richmond, 1907

セキレイ科

熊本県カテゴリー
地域個体群（LP）
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 夏は高岳の中腹から山頂付近にかけての岩場。冬は平野部の草地や森林

生息状況 阿蘇高岳の岩場で少数の繁殖が確認され、日本における繁殖の南限地となっている。灌木等はなく、割れ目に生えた草本類の根元に営巣する。近年は、噴火の影響で調査できない状況が続いており、確認できていないが、環境の変化はほとんどないところであるため、状況は継続しているものと思われる。冬は県内各地の草地や森林に漂行する。

生存への脅威 観光開発、自然災害、火山活動

特記事項 繁殖南限



撮影：白石久善

ホオアカ

熊本県カテゴリー
地域個体群（LP）
環境省カテゴリー

Emberiza fucata fucata Pallas, 1776

ホオジロ科

選定理由 分布境界

生息環境 原野

生息状況 阿蘇地方の草原で繁殖するが、個体数は少なくはない。ホオジロよりもより草原性で、灌木等の混じらない草地にも生息している。現在は、草原の遷移の進行に伴い、草原面積が減少しているため、個体数が減っている。冬季は干拓地や平地の農耕地に漂行する。

生存への脅威 農地開発、観光開発、草地の開発、管理放棄

特記事項 繁殖南限



撮影：谷好雄

要注目種（AN）

サンカノゴイ

熊本県カテゴリー
要注目種（AN）
環境省カテゴリー
絶滅危惧IB類（EN）

Botaurus stellaris stellaris (Linnaeus, 1758)

サギ科

選定理由 その他（希少）

生息環境 ヨシ原などの湿地

生息状況 これまで、有明海沿岸地や天草市（旧本渡市）などでの観察例がある。県内を通過していると思われるが、渡来が不定期であることと、個体数が少ないので、詳細は不明である。

生存への脅威 水湿地の開発、農薬使用

特記事項



撮影：白石久善

ヘラサギ

熊本県カテゴリー
要注目種（AN）
環境省カテゴリー
情報不足（DD）

Platalea leucorodia leucorodia Linnaeus, 1758

トキ科

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 低地の水田や畑、湿地、干潟

生息状況 八代海（不知火海）や有明海の干潟や河口に冬鳥として飛来する。1996年ごろからは毎年渡来しているが、個体数は1～数羽と多くはない。クロツラヘラサギの群れに混じって休憩・採餌を行うことが多い。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項



撮影：白石久善

コシャクシギ

Numenius minutus Gould, 1841

シギ科

熊本県カテゴリー

要注目種 (AN)

環境省カテゴリー

絶滅危惧 I B 類 (EN)

選定理由 県内局限、近年減少**生息環境** 干拓地の農耕地**生息状況** 春と秋の渡りの時期に、ごく少数が天草や八代海(不知火海)・有明海の沿岸地域の干拓地・農耕地などで観察されている。特に春の時期の方が多いが、飛来は不定期で少なく、1~数羽であるため詳細は分からない。**生存への脅威** 農地開発、農薬使用**特記事項**

撮影：白石久善

マダラウミスズメ

Brachyramphus perdix (Pallas, 1811)

ウミスズメ科

熊本県カテゴリー

要注目種 (AN)

環境省カテゴリー

情報不足 (DD)

選定理由 その他 (希少)**生息環境** 有明海**生息状況** 1972年に熊本市小島沖での1羽と1977年に小島での2羽の記録がある。熊本県博物館ネットワークセンターと熊本博物館が収蔵している剥製がある。他に観察記録は無く、詳細は不明。**生存への脅威** 不明**特記事項**

ウミスズメ

Synthliboramphus antiquus (Gmelin, 1789)

ウミスズメ科

熊本県カテゴリー

要注目種 (AN)

環境省カテゴリー

絶滅危惧 I A 類 (CR)

選定理由 その他 (希少)**生息環境** 天草周辺の海**生息状況** 1968年上天草市(旧大矢野町)湯島付近での2羽と2009年天草市(旧倉岳町)宮田港近海での13羽の観察記録があるのみである。冬鳥として、九州以北に渡来しているらしいが、詳細は不明。**生存への脅威** 不明**特記事項**

チゴモズ

熊本県カテゴリー
要注目種 (AN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)

Lanius tigrinus Drapiez, 1828

モズ科

選定理由 その他 (希少)

生息環境 低地の樹林

生息状況 1990年に天草市 (旧牛深市) 大島での1羽と2005年山鹿市 (旧菊鹿町) での1羽、2017年天草市大江での2羽の記録があるのみである。春の渡りの最盛期よりも若干遅い5月中旬以降の観察が多い。

生存への脅威 不明

特記事項



撮影：増田加良子

鳥類

シマアカモズ

熊本県カテゴリー
要注目種 (AN)
環境省カテゴリー

Lanius cristatus lucionensis Linnaeus, 1766

モズ科

選定理由 近年減少

生息環境 平野部の農耕地、草地

生息状況 1970年代から80年代にかけては、複数つがい熊本市域で繁殖していたが、現在では全く見られなくなった。近年は、干拓地などで越冬が観察されたこともあるが、毎年確認されていない。

生存への脅威 土地造成、道路工事

特記事項



撮影：渡辺邦彦

ホシガラス

熊本県カテゴリー
要注目種 (AN)
環境省カテゴリー

Nucifraga caryocatactes japonica Hartert, 1897

ガラス科

選定理由 県内局限、分布境界、特殊生息生育環境

生息環境 九州中央山地の針広混交林

生息状況 主として、九州中央山地の針葉樹と夏緑樹の混生した林に少数が生息するが、ブナ林で見られる事もある。幼鳥が観察されたこともあり、留鳥として繁殖している可能性が高い。

生存への脅威 森林伐採、人工造林

特記事項 繁殖南限



撮影：坂梨仁彦

キビタキ

熊本県カテゴリー

要注目種 (AN)

環境省カテゴリー

Ficedula narcissina narcissina (Temminck, 1836)

ヒタキ科

選定理由 県内局限

生息環境 低山帯から山地帯の広葉樹林、竹林

生息状況 かつては夏緑樹林の鳥と考えられていたが、近年は標高の低い照葉樹林やモウソウチク林でも繁殖期を通じて見られるようになった。しかし、かつての生息地の夏緑樹林では激減傾向にある。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事

特記事項



撮影：白石久善

コイカル

熊本県カテゴリー

要注目種 (AN)

環境省カテゴリー

Eophona migratoria migratoria Hartert, 1903

アトリ科

選定理由 県内局限

生息環境 公園や低山帯の林

生息状況 基本的に冬鳥として、秋から春期かけて農耕地の樹林帯や疎林などで小群が見られる。個体数は多くなく、10羽前後のことが多い。1980年から2010年の間に3回、熊本市の街路樹で繁殖が確認されたが、近年は確認されていない。

生存への脅威 森林伐採、道路工事

特記事項 1980年に日本初の繁殖記録



撮影：谷好雄

(3) 文献

1965年以降の県内での関係する種、亜種について記載されたものを採用した。

1. 別府穰 (2009) 熊本の野鳥 (4). 自主制作DVD.
2. 別府穰 (2010) 熊本の野鳥 (5). 自主制作DVD.
3. 江口和洋・天野一葉・坂梨仁彦 (2002) 移入鳥類の野生化の実態. 第11期プロナトゥーラフアンド助成成果報告書.
4. 遠藤公男 (1993) 夏鳥たちの歌は、今. 三省堂. 東京.
5. 古江之人 (2007) 球磨路の鳥たち. 自費出版. 人吉.
6. 今江正知・大滝典雄・甲斐数美・仮屋崎忠・坂梨仁彦・佐藤千芳・瀬井純雄・田原朗敏・塚原和之・寺崎昭典・藤井法行 (2001) 自然と生き物讃歌. 「自然と文化阿蘇選書9」. 一の宮町.
7. 今村京一郎 (1976) シマアカモズの繁殖について. 鳥 25 (99) : 53-56. 日本鳥学会. 東京.
8. 今村京一郎・光永汪 (2004) 九州におけるビンズイの繁殖の初記録. Strix 22 : 185-187. 日本野鳥の会. 東京.
9. 五木村総合学術調査団 (1987) 五木村学術調査 (自然編). 五木村.
10. 入江照雄・甲守崇・坂梨仁彦・西野宏・村上功 (1998) 新熊本市史. 通史編第1巻. 第二節動物. 熊本市.
11. 環境庁 (1981) 日本産鳥類の繁殖分布. 第2回自然環境保全基礎調査 (緑の国勢調査) 動物分布調査 (鳥類) 報告書. 環境庁. 東京.
12. 河内町 (1991) 河内町史 通史編上. : 18-126.
13. 川口孫次郎 (1937) 日本鳥類生態学資料. 巢林書房. 東京.
14. 河原畑勇 (1978) 立田山南斜面の鳥類(1949-1957). 熊本生物研究誌 11 : 1-13.
15. 球磨郡教育会球磨郡支会 (1941) 球磨郡誌. 金輝堂書店. 人吉.
16. 熊本県 (1969) 人吉球磨五木五家荘地区自然公園候補地学術調査報告書.
17. 熊本県 (1978) 熊本県の野鳥. 熊本県林務観光部自然保護課.
18. 熊本県 (1988) くまもと自然に生きる鳥たち. 熊本日日新聞情報文化センター. 熊本.
19. 熊本県 (1996) 熊本県の野鳥. 熊本県林務水産部森林保全課.
20. 熊本県教育会 (1927) 八代郡誌. 熊本県教育会八代郡支会.
21. 熊本県立済々黌高校生物班 (1961) 立田山を中心とした鳥類. 熊本生物研究誌 2 : 9-11.
22. 熊本日日新聞情報文化センター (1995) くまもと自然大百科. 熊本日日新聞社. 熊本.
23. 熊本生物研究所 (1986) くまもとの自然シリーズ1. 江津湖の自然 : 9-44. 熊本.
24. 熊本生物研究所 (1987) くまもとの自然シリーズ2. 金峰山の自然 : 75-96. 熊本.
25. 熊本生物研究所 (1991) くまもとの自然シリーズ3. 阿蘇・菊池溪谷の自然 : 97-116. 熊本.
26. 熊本生物研究所 (1993) くまもとの自然シリーズ4. 天草の自然 : 99-118. 熊本.
27. 熊本生物研究所 (1997) くまもとの自然シリーズ5. 五木・五家荘の自然 : 123-138. 熊本.
28. 熊本市 (1982) 熊本市立熊本博物館資料目録 自然史・理工資料篇. 熊本市立熊本博物館.
29. 熊本市 (1993) 熊本市自然・文化資料集成V. 熊本市立熊本博物館.
30. 熊本市 (2008) 新熊本市史. 通史編. 第1巻第二節. 動物. 自然. 原始・古代. 1.
31. 熊本野鳥の会 (1989) 野鳥とともに20年. 熊本野鳥の会・日本野鳥の会熊本県支部.
32. 黒沢令子・樋口広芳 (1993) ササゴイのまき餌漁の種類とみられる地域特性. Strix 12 : 1-21. 日本野鳥の会. 東京.
33. 三角町 (1987) 三角の自然. 三角町.

34. 三田長久 (2010) 熊本県立田山におけるオウチュウカッコウの記録. Bird Reserch 6 : 13-16.
35. 中園敏之 (1996) 脊椎動物目録 鳥類(1). 蘇陽町誌編纂委員会 (編) 蘇陽町誌 : 458-462. 蘇陽町.
36. 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会 (目録編集委員会) 438pp (三田市).
37. 日本野鳥の会熊本県支部 (2009) くまもとの野鳥 一写真図鑑一. 熊本.
38. 日本野鳥の会熊本県支部 (1982~2015) 野鳥くまもと. 日本野鳥の会熊本県支部. 熊本.
39. 日本野鳥の会熊本県支部 (2016) 熊本県鳥類誌 一熊本県産鳥類目録. 日本野鳥の会熊本県支部. 熊本.
40. 日本野鳥の会熊本県支部 (2016) 熊本県鳥類誌 (熊本県産鳥類目録). 自費出版.
41. 日本野鳥の会九州支部 (1961~1967) 九州野鳥 . 日本野鳥の会九州支部. 福岡.
42. 西岡鉄夫 (1974) 熊本の動物. 熊本日日新聞社. 熊本.
43. 大田眞也 (1969) 人吉・球磨地方産鳥類について. 熊本県中学校理科教育研究会々誌. 7 : 2-11.
44. 大田眞也 (1975) 宇土半島およびその周辺近海の鳥類. 宇土半島研究会 (編) 宇土半島・自然と文化 : 90-95. 宇土半島研究会.
45. 大田眞也 (1977) 熊本の自然. 日本生物教育会熊本大会実行委員会.
46. 大田眞也 (1982) 菊池溪谷の動物. 熊本洞穴研究会.
47. 大田眞也 (1982b) 宇土半島およびその周辺近海の鳥類の補遺. 宇土半島研究会 (編) 宇土半島・自然と文化 : 104. 宇土半島研究会.
48. 大田眞也 (1983) 熊本の野鳥記. 熊本日日新聞社. 熊本市.
49. 大田眞也 (1988) 熊本の野鳥百科. マインド. 熊本市.
50. 大田眞也 (1994) 熊本の野鳥探訪. 海鳥社. 福岡市.
51. 大田眞也 (1995) 川辺川流域の鳥. 建設省川辺川工事事務所.
52. 坂梨仁彦 (1988) 白髪岳自然環境保全地域及び周辺地域の鳥類相. 白髪岳自然環境保全地域調査報告書. 環境庁自然保護局.
53. 坂梨仁彦 (1990) 日本帰化動物 Who's Who ソウシチョウ. アニマ No. 208. 平凡社.
54. 坂梨仁彦 (1992) 玉名市鳥類目録. 玉名市歴史資料集第十集. 玉名市.
55. 坂梨仁彦 (1993) 玉名市史. 第九章動物. 玉名市史資料編3. 自然. 玉名市.
56. 坂梨仁彦 (1993) 泉村の鳥類:167-192. 五家荘の会「泉村の自然」編集委員会.
57. 坂梨仁彦 (1995) 玉東町史. 第四章動物. 玉東町史通史編. 玉東町.
58. 坂梨仁彦 (1998) 郷土の自然に親しむ. 熊本自然環境研究会.
59. 坂梨仁彦 (2000) 荒尾市の鳥類相. 荒尾市史「環境・民族編」. 荒尾市.
60. 坂梨仁彦 (2002) 動物. 南関町史特論. 南関町.
61. 相良村誌編纂委員会 (1994) 相良村誌 (自然編). 相良村.
62. 佐藤重穂 (1997) 日本各地のソウシチョウ 菊池溪谷. BIRDER 11(3) : 40-41.
63. 関伸一 (2009) 九州中央山地におけるシロハラ *Turdus pallidus* の繁殖事例. 平成20年度森林総合研究所九州支所年報 21 : 17.
64. 関伸一・坂梨仁彦 (2012) 九州における繁殖期のコマドリ *Luscinia akahige* の分布. 九州森林研. 65 : 39-43.
65. 高野茂樹 (2005) 八代海 (不知火海) に集う鳥たち. 月刊海洋. 37 (1) : 59-64.
66. 谷口育英 (1976) 熊本の野鳥を訪ねて. 自費出版. 熊本.
67. 谷口育英 (1989) 動物はともだち. 自費出版. 熊本.
68. 田辺哲夫 (1991) 河内町史 (通史編上). 河内町.

69. 山江村教育委員会（1990） 山江村誌第1巻. 山江村教育委員会. 山江村.
70. 山鹿市自然環境調査研究会（2007） 山鹿市自然環境調査報告書. 山鹿市.
71. 安尾征三郎・西村誠（2014） 荒尾干潟. BIRDER 5月号:31. 文一総合出版. 東京.
72. 矢田新平（1972） 熊本県産チドリ目目録. 自費出版. 熊本.
73. 吉倉眞（1977） 阿蘇の動物（脊椎動物）. 阿蘇国立公園学術調査報告書. 熊本県.
74. 吉倉眞・大田眞也（1978） 天草の鳥類. 熊本県の野鳥:146-196. 熊本県林務観光部自然保護課. 熊本.
75. 吉倉眞（1993） 熊本市自然・文化資料集成V. 熊本市立熊本博物館.